

600人が労災撲滅へ誓い

建災防道支部 札幌で全道大会

建設業労働災害防止協会(建災防)北海道支部は16日、札幌市内の共済ホールで「第47回北海道建設業労働災害防止大会」を開催し、全道から関係者ら約600人が参加した。工事が激減する中で、労災増加傾向を懸念し、安全管理の徹底を図り悲願の労災撲滅を誓い合った。

2010年の道内建設業労災は、死亡災害が22人と過去最低を更新したものの、休業災害が09年を38人上回る900人と再び大台に乗った。

主催者を代表し坂敏弘副大会長は、東日本大震

災の被災者に哀悼の意を表すとともに「自然の威力をあらためて知った。しかし建設業は災害出動や復旧・復興に最も大きな責任がある」と



害への対処を力強く宣言した。

建設業の取り巻く環境については「公共投資の削減や低価格受注などでかつてなく厳しい」と説明し、その中で10年の労災を振り返り「建設業が最も多発する業種であることに変わりはない」と工事に反比例する労災増加を警告した。

7月から始まる全国安全週間に向けては「トップの強力なリーダーシップで労災防止活動に積極的に取り組むことを願う」と呼び掛けた。

来賓の高原和子北海道労働局長は「最低限のルールを守り、労使一体のリスクアセスメントを徹底してほしい」と要請し、大震災の被災地でも細心の安全管理を求めた。開発局の森田康志事業振興部長は「重要なのは現場でのコミュニケーション」とアドバイスし、引き続き体制強化への支援を進める。

安全表彰では優良賞の2社32現場と功績賞の所長12人と職長3人、安全

衛生推進者2人に賞状を贈り、坂副大会長は「さらなる精進と活躍を期待する」と榮譽をたたえた。

記念講演は北大観光学高等研究センターの石森秀三所長が「観光立国時

関係者が一丸となって労災の根絶に取り組む決意を誓った